

# 大阪損保革新懇ニュース

大阪損保革新懇事務局  
 大阪市中央区道修町3-3-10  
 大阪屋道修町ビル3F  
 06-6232-1095

## 「原発ゼロ」へ 決意新たに！ なくそう原発大飯バスツアーに36名

9月29日(土)～30日(日)、若狭湾への「なくそう原発大飯バスツアー」に36名が参加しました。8時に大阪を出発し一路大飯町へ。再稼働した大飯原発を道路側からは見る事ができません。「うみんぴあ大飯」で遊覧船に乗船し、若狭湾の海上からの見学です。乗船してから20分程のところで船は原発付近へ到着。海上からゆっくり眺めることが出来、みんな一斉に写真撮影となりました。

午後からは、若狭・小浜の明通寺へ。平安時代に坂上田村麻呂によって建立され、福井県で唯一、三重塔と本堂の国宝を有するという名刹です。その明通寺の住職は中嶋哲演さん。なんと原発反対県民会議代表委員を務めておられます。中嶋住職から約1時間、若狭の原発15基についての40年間のたたかい、反原発への熱い思いをお聞きしました。

住職のお話、「県民には電力不足などありません。原発は主として京阪神の大都市に50万ボルトで送電されています」「火力発電所は、大阪をはじめ都心に作られています、原発はこの福井や福島などの地方にしか作られていません。安全神話は、実は最初の原発ができたときにすでに崩壊していたのです」には一同納得です。

さらに、「いま一番心配なのは福島の子もたちです。放射能の影響が本当に危惧されます。地震は天災ですが、原発事故は人災なのです。事故がなかったとしても、稼働すれば必ずできる『死の灰』の管理をこれから長い期間にわたり子どもたちに押し付けてはなりません。関西電力の大株主は大阪市、神戸市です。電力消費地の近畿に住んでいるみなさんも大いに頑張ってもらいたい」と訴えられました。

その後、大飯町議会ですら一人再稼働に反対している猿橋巧議員(日本共産党)からお話を伺いました。猿橋さんは、町議7期に亘り原発誘致の時から一貫して、原発の危険性を指摘し奮闘してこられました。豊かな斗いの報告には多くの資料を準備していただき勇気づけられました。

行程の最後に、若洲一滴文庫(作家・水上勉さんの文庫や竹人形館所蔵)を見学しました。

翌日は台風17号が接近していることを考慮し、風雨が強まる前のお昼に帰阪しました。限られた時間のスケジュールでしたが、有意義なバスツアーでした。



明通寺・国宝の三重塔をバックに



海上からの大飯原発(左から)4～1号機

〔参加者の感想から〕

## こどもらに安心・安全を

3・11の東日本大震災で原発事故の恐ろしさを目にして、今回のバスツアーに参加しました。私の住む千葉県我孫子市も原発事故により間接被害を受けました。放射線量が高く子どもたちを外で遊ばせられず、小さな子どもや乳児を持つ人は住むのをためらってしまう。さらに風評被害も広がり、直接被害・間接被害をあわせると大多数の人が被害者になり原発はいらないと言っています。海から見た大飯原発は立派な発電所でした。しかし？地震で大きな津波が来たら？安全は守られるのか、原発銀座の若狭湾に大津波が来たら・・・

明通寺・中嶋哲演住職の説得力ある話に感動し、未来ある人たちの為に奮闘されている姿に共感を得ました。

政府・民主党は青森県大間町にある建設中の原発が凍結されていましたが、建設を再開しました。怒りを通り越して呆れてしまいます。全ての原発を廃炉にして自然エネルギーと代替エネルギーの発電で安全安心の日本にするために、私もやることから行動していこうと決意した意義あるバスツアーとなりました。 高橋 喜之 さん

## 貴重な経験を得たツアー

生で原発を見ることや大人の人の講演を聞くことは凄く貴重な経験でした。大学の現代社会学部一学生として以前に原発の是非を論じる機会がありましたが、当時より強く原発に反対です。参政権を得てこれから社会に出る私たち世代が、潮流発電や地熱発電への転換など、そういった技術開発の促進で能動的に主張していかなければならないと感じました。今回、大飯原発バスツアーに参加できて大変良かったです。

中村真理子 さん(大学2年生・20歳)

## 美しい若狭湾に不似合いな原発

緑の田んぼと蒼い空、若狭湾、日本人なら大好きな景色が広がる美しい町、家が点在している過疎の町にそぐわない立派すぎる沢山の建物。お金がない田舎を狙って建てたのがわかります。3つの活断層があり、危険な大飯原発はすぐに廃止し美しい若狭湾を守らないと強く思います。

世界で唯一の被爆国だからこそ、安全なエネルギーへの転換を世界に発信する権利があると思いました。 小畑由紀子 さん

## 原発の恐ろしさを身近に感じて

よいお天気の中、今回は安芸の宮島(広島)に次いで2回目の参加でした。原発、日頃耳にしている言葉ではあるが、身近ではないものであった。日々電気を使い暮らしている自分たちであっても、なかなか身近に感じていなかったのでは？

今回は、3月11日の地震によって人々がその原発の恐ろしさを身近に感じ、日々の生活を考える機会を与えられたと思う。

いちばん感銘を受けたことは、明通寺の住職・中嶋哲演さんの一貫してぶれない生き方です。頭が下がる思いでいっぱいでした。人は身勝手に、簡単にコロコロと意見や生き方が変わる。それを人のせいにする。それが現代社会では当たり前のような時代で、中嶋さんの話を聞くことで、多くのことを考えさせられた。安全神話とはなんなのか？交付金という麻薬を取り除く為にはどうしていくことが一番よい方法なのか？沢山の宿題があります。

その宿題を、私も出来ることから始めていかなければと思うツアーでした。台風が近づき大変な中、幹事さんの迅速な対応で無事帰る事が出来たことを感謝しています。 さとみ さん

## いま『変革』の時代

## あなたが動けば変えられる！

### 〈記念講演と15回総会のご案内〉

ジャーナリスト 伊藤千尋さんのお話  
(朝日新聞記者)

11・8(木)PM6:30～

於・本町商工会館7階第一講堂